

◆関連会議

平成 29 年度普及事業検討会

水産海洋技術センター 久保弘文

平成 29 年 3 月 16 日（木）に 29 年度普及事業検討会が、ネストホテル那覇 3 階のペガサスにおいて、開催された。内容としては当センター普及事業結果と 29 年度同計画が漁業団体代表他 11 名の構成委員中 9 名が出席し、全会一致で承認された。出席委員は、学識経験者 沖縄水産高校教諭 潮崎 征孝氏、漁業団体 沖縄県水産公社 課長 平田 明則氏、恩納村漁業協同組合 組合長山城 正巳氏、港川漁業協同組合 組合長 樋岡 邦彦氏、沖縄県漁業士会長 屋比久 健氏、沖縄県漁協女性部連合会 会長 新立 弘子氏、市町村代表 糸満市 海人課 課長 前田 淳氏、県関係 水産課 課長 平安名盛正氏（上田美加代班長が代理主席）、沖縄県水産海洋技術センター 所長 諸見里 聡氏であった。

平成 29 年度水産業改良普及事業結果については、シンポジウムとして、ヒトエグサ生産者会議を北中城漁場視察と合わせての開催したこと、海ぶどう協議会支援として、花と食のフェスティバルにおける海ぶどう品評会を委託業者による丸投げではないかたちでの、協議会による自力開催を成し遂げ、久米島が県知事賞、恩納村が協議会会長賞を受賞したこと、流通加工対策事業として、全地区（与那原・西原：ヒジキじゅうしいの素、港川：トビウオ煎餅作り、石川：いまいゆ干物加工、座間味：カジキ

饅頭、近海鮪：マグロ饅頭（花食販売へ）、加工担当者会議を読谷漁協新施設、トロピカルテクノプラスの視察で 32 名参加したこと等を報告した。以上に対して、委員からは多方面にわたる取り組みを評価する意見が多く出た。

平成 30 年度水産業改良普及事業の計画案については、ヒトエグサ巡回指導および人工採苗試験について前年度に引き続き巡回と養殖試験を実施し、人工採苗試験も研究班と鋭意推進すること、養殖販促（生アサ）、新期養殖場での養殖技術指導をすること、モズク異物除去技術定着試験については船上設置型異物除去機の使用による養殖モズクの異物除去効果について検証すること、海ぶどうブランド化マニュアル適応と品評会について、自力開催した品評会や海ぶどうブランド化マニュアル適応を引き続き推進すること等が了承された。

話題提供では米丸普及員、津覇古技師から沖縄県漁業士活動について、上原普及指導員からヒトエグサの新しい養殖技術開について、紫波普及指導員から水産資源利用拡大事業その 2 について東支那海でのケンサキイカ試験操業を漁業士会の協力の下で継続実施できた内容について、スライドを交えて報告し、委員からは今後の現場展開に期待する意見が多かった。